谷村町駅舎

富士急行線谷村町駅舎は、1929年に西洋の建築様式を用いて建てられました。西洋の建築様式は、当時の日本における近代化の精神を表しています。ほとんど木造ですが、白いモルタルの層が外壁を覆っており、屋根は、湾曲した伝統的な建築様式とは異なり、平らになっています。 屋根の上には風向計が取り付けられており、そこには「Yamura」の「y」が飾られています。建物の北側の部分は駅員の住居となっています。

駅の搭乗ホームは、明治時代（1868-1912）の使用されなくなった鉄道からの中古レールで作られた屋根によって保護されています。それらのレールが製造された日付が表面に記されており、現在も読むことができます。大恐慌の初めにこの駅は建設されていますので、これらの柱は美的選択だけでなく、都留の人々が行った、経済難の際のコスト削減のための工夫の一例でもあります。